

学習内容報告書 フォーマット

学校名	青森市立北小学校
授業者	奈良 文治

1. 単元計画

1-1. 単元名

陸奥湾探検隊

1-2. 学年

5 学年

1-3. 教科

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

児童にとって身近な海である陸奥湾について調査・見学を行い、分かったことを新聞にまとめ、これからの陸奥湾について考える。

～主な活動～

- 陸奥湾の概要について知る
- 陸奥湾で採れる生き物について知る
 - ・浅虫水族館員による食育指導
- 陸奥湾で行われるホタテガイの養殖について知る
 - ・平内町にある水産総合研究所でホタテガイの養殖の仕方や調査船の見学
 - ・学区（青森市奥内地区）の漁港において、ホタテガイの養殖を行う船での乗船体験
 - ・ホタテガイの稚貝の貝殻を使ったしおり作り
- 見学したことや調べたことをまとめ、発表会を行う
- ホタテガイの養殖を中心とした、陸奥湾の現状とこれからの課題と解決策について考える

1-5. 単元設定の理由・ねらい

児童はこれまで、地引き網体験など海に関わる交流学习を学区の漁業者や関係機関職員とともにしている。身近に海があるものの、そこで採れる生き物や漁業の仕事について詳細を知らないという実態がある。そこで、身近な海である陸奥湾に生息する生き物や、ホタテガイの生態や養殖の仕方、ホタテガイの活用の仕方を調査・見学することで、陸奥湾に対する理解やこれからの環境保全について理解を深めさせたい。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・身近な環境に興味関心を持ち、調べたい課題を設定し、見通しを持って追究する力。
- ・収集した情報をもとに考え、感じたことを工夫してまとめる力。
- ・青森の自然の素晴らしさと陸奥湾との関わりを理解し、自分たちにできることを実行しようとする態度。

1-7. 単元の展開（全35時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 ～ 10 時	<p>陸奥湾に棲む生き物を知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸奥湾の概要について調べる。 ・陸奥湾で採れる魚とそれらを生かした郷土料理を知る。（外部講師による食育指導） ・地引き網体験を行う。 ・興味を持った生き物を選んで、その生態や特徴を調べる。 ・分かったことを調査報告書にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・陸奥湾の概要については、調べる資料を提示する。また、全員で同じ資料を活用するほかに、インターネットを用いて、調べることができるようにする。 ・調べたことは、国語の「調査報告書」の書き方を参考にまとめさせる。 <p>【教】「おさかな自慢図鑑」「続 おさかな自慢図鑑」 著：青森水産振興課 「魚 新版」 著：井田 齊、松沢 陽士</p> <p>【外】浅虫水族館員による食育指導 学区の漁業者の協力による地引き網体験</p> <p>【評】自分で選んだ生き物について、分かりやすくまとめることができたか。</p>
1 ～ 25 時	<p>ホタテガイの養殖について知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホタテガイと養殖の仕方について、知っていることや疑問点を話し合う。 ・ホタテの生態や養殖の仕方について知る。（水産総合研究所見学） ・ホタテガイの養殖の様子について知る。（漁船の乗船体験） ・ホタテガイの活用の仕方について知る。（ホタテガイカレーの試食と稚貝の貝殻を使ったしおり作り） ・分かったことをもとに、これからのホタテガイの養殖や漁業について話し合う。 ・壁新聞にまとめ、発表会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入の話し合いでは、素直な疑問を出し合うことで、これからの調査・見学の見通しを持たせる。また、質問事項は、あらかじめ施設に知らせる。 ・まとめる前に、分かったことから工夫や苦勞・努力に気付かせ、まとめられるようにする。 <p>【教】水産総合研究所の提供資料</p> <p>【外】水産総合研究所の施設見学 学区の漁業者の協力による船上体験 学区の漁協の協力による試食とものづくり</p> <p>【評】調査・見学をして分かったことをまとめるとともに、海に携わる人々の工夫や苦勞・努力に気付くことができたか。</p>
2 ～ 35 時	<p>ホタテガイの養殖のこれからについて考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸奥湾のホタテガイ養殖の現状を確認する。 ・ホタテガイ養殖の課題を話し合う。 ・課題に対する解決策を話し合う。 ・自分たちにできることをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習で分かったことや、ホタテガイの養殖に携わる人々の苦勞をもとに課題を見つけさせ、課題解決への糸口を考えるとともに、自分たちにできることを考えさせる。 <p>【外】青森市農林水産部水産振興センター</p> <p>【評】これまでに学習したことをもとに、自分なりの課題解決策を考えることができたか。</p>

2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ

単元 35 時間中の 3, 4 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- ・陸奥湾に生息する生物やそれらを生かした料理を学ぶことで、身近な海と食へ関心を高め、豊かな自然の恵みに対する感謝の気持ちをもつことができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）	
<p>1. 陸奥湾の概要について知る。</p> <ul style="list-style-type: none">・学校の前にある海です。・ホタテの養殖をしています。	<ul style="list-style-type: none">・基本的な指導は、浅虫水族館員が行う。・教師は児童と会話をしながら、疑問を持たせたり、普段気がつかないところに目を向けさせたりする。	
<p>2. 陸奥湾でとれる主な魚について知る。</p> <ul style="list-style-type: none">・ホタテがとれます。・地引き網をしたときに、タコやヒラメが入っていました。		
<p>3. 主な魚やその卵がどのように料理に活用されているか考える。</p> <ul style="list-style-type: none">・サケからはいくらがとれます。・ニシンからはカズノコがとれます。		<ul style="list-style-type: none">・クイズ形式で行い、魚と料理を組み合わせさせる。
<p>4. 食品サンプルをもとに、陸奥湾で採れる魚とその料理を知る。</p> <ul style="list-style-type: none">・マグロって、思っているより大きい。・ホタテは、貝焼きみそになっている。・刺身や焼き魚以外にも、いろいろな料理がある。・サメの頭も食べるんだね。		<ul style="list-style-type: none">・食品サンプルは丁寧に扱わせる。・魚のサンプルを用いて、魚の大きさを実感させたり、どの料理になっているのか考えさせたりする。
<p>5. 感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none">・近くの海でたくさんの魚がとれることを知りました。食べたことがない料理もありました。生き物や、漁師の人たちに感謝をして食べたいです。		<ul style="list-style-type: none">・分かったことだけでなく、考えたことやこれからの食事についても意見を持たせる。
	<p>【評】陸奥湾でとれる魚と料理について理解を深め、海の恵みを食べることについて考えることができたか。（感想シート）</p>	

2-4. 単元における位置づけ

単元 35 時間中の 12~17 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-5. 本時の目標

- ・海上養殖施設や種苗育産施設の見学を行うことで、地元で盛んに行われているホタテガイ養殖や地元漁業者が協力している『つくり育てる漁業』について理解を深める。
- ・陸奥湾の生物やそれを取り巻く環境について学ぶことで、漁業や海への関心を高める。

2-6. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1. 平内町の水産総合研究所を見学する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸奥湾で働く漁師は、水をきれいにするために植林を行っているんだね。 ・ホタテガイの養殖は、たくさんの手間がかかっている。 ・ホタテガイもけがをするんだ。 ・水温が高いと死んでしまうんだね。 ・ホタテガイの赤ちゃんってすごく小さい。 ・いろいろな色の貝があるね。 ・調査船にはいろいろな機械がついている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見学に際しては、事前に打ち合わせを行う。 ・職員や漁師の方への質問内容は事前に集約し、相手に伝えておく。 ・分かったことは、ワークシートに書きこませる。 ・施設内を見学する際には、案内をする職員の方に質問をしながら見学させる。 ・調査船の見学では、安全に気を付けて見学させる。
<p>2. 学区の漁業協同組合で、ホタテガイを使ったカレーを試食する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホタテがたくさん入っておいしい。 ・家でも作ってもらおうかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホタテ漁業者の方々や、調理して下さった方々へ感謝の気持ちをもって食べさせる。
<p>3. ホタテガイの稚貝を使ったしおり作りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稚貝の貝殻って全部模様が違うね。 ・小さいから並べるのが難しい。 ・きれいなしおりができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・しおり作りと乗船体験は、グループに分かれて行わせる。 ・しおり作りは、作るだけでなく貝の模様や、ホタテガイの有効活用という視点をもたせる。
<p>4. ホタテガイの養殖船で乗船体験をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見たことがない機械がたくさんあるね。 ・クレーンみたいなもので、かごを引き上げるんだね。 ・ゆっくりのスピードでも、けっこう揺れる。 ・船の上で仕事をするのは大変だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乗船体験は、救命胴衣を身に付けさせてから行う。 ・船の装備や使い方について教えてもらう。 ・洋上に出た際には、漁業者の話をよく聞き、安全に十分気を付けさせる。
<p>5. 見学した施設やお世話になった人への感謝の手紙を書く。</p>	<p>【評】ホタテガイの養殖に携わる人々の工夫や苦労・努力について理解を深め、ホタテガイの養殖について自分の考えをもつことができたか。</p> <p style="text-align: right;">（ワークシート・手紙）</p>

3. 今回の活動の自己評価

- ・浅虫水族館員の方々から頂いた講話や、水産総合研究所員等の講話は非常に分かりやすく、自分たちで調べた内容をより深めることにつながった。
- ・水産総合研究所の見学では、施設内を実際に見たり質問をしたりすることで、働く人の工夫や苦勞・努力を知ることができ、漁業に携わってみたいと考える児童も増えた。
- ・単元全体の初めに全員で共通の資料を活用したことで、学習の目的が明確になり、それぞれが解決したい課題を見つけることができた。
- ・学習のまとめでは、学んだことを分かりやすく伝えるまとめをすることができた。
- ・郷土に関する学習が深まるにつれ、郷土を守ろうとする意識が高まっていることを期待したい。

4. 今後の課題

- ・まとめについては、校内での発表会であったが、可能であれば見学した施設の職員などお世話になった方々に向けた発表会ができるとよい。(非接触で ICT を活用した発表が考えられる)
- ・陸奥湾を守るために見つけた新たな課題とそれを解決する方法については、時期が遅くなってくることもあり、外に出て行う実践が難しくなってくる。単元計画として、実践を行ってから最終的なまとめを行うことができないか検討したい。または、外に出なくてもできるような実践を検討したい。
- ・学んだことが次年度以降の総合的な学習に生かせるように、学習した内容の軌跡が残るような掲示物や資料のまとめをする必要がある。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・各種関係機関との連携が必要なため、連絡を密に行う必要がある。
- ・外部機関を活用した学習の時期が明確でない場合は、単元計画を調整する必要がある。
- ・5 学年で活用する場合は、社会科の「水産業のさかんな地域」の学習と関連づけて行くと、より効果的である。